

山本一清博士殿

(口繪参照)

拜啓 益々御健勝にて御活躍と日本天文学の爲に大慶申上げます、(中略)さて私の勤めてゐます大阪飛行機研究所に四月より航空寫眞部を設ける事になり、私事務をとる傍ら専ら航空寫眞をやつてをりますが、前月(4月)19日に山科鐘紡分工場を撮影に参りまして、それから京都市内に入るべく東山を越えました節、操縦者が貴天文臺の上を通過してくれましたので、私トツサに一枝撮影致しました、同封の寫眞がそれで記念の爲め一枝お目かけます、少しでも興味を惹けば幸甚で御座います(後略)

昭和10年5月7日

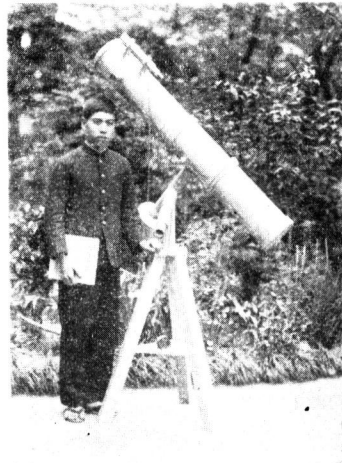
大阪市 小 森 郁 雄

編輯だより ★前月號で御約束しておいた日食の記事は都合で八月號へ延期せねばならなくなつた事を御詫びします。

★数ヶ月前誌上で大いに物議を醸してゐた天文用語に關して、野尻抱影氏より御覽の如き長文の玉稿を頂いたので、山本先生が之に答へられて本誌誌上獨特の異彩を放つ事となつた。……ともあれ何處までも論じ盡されなければならぬ宿題です。御意見の方は御寄稿下さい、欣んで誌上を割愛致します。

★昨今本誌の發送が後れてゐるので、會員諸氏へ誠に相濟まなく思ひつゝも、如何ともなし難く止むを得ず延引になつてゐます。その上發行を一日延ばしても校正を嚴にする方の主義を取つて尙急いで居る編輯部としての苦しい努力を拂つてゐる事を御想像願ひたい。僅か40頁の本誌ではあるが、多種多様の頁を持つてゐるのが、「天界」の特色であり、編輯努力の注がれる點です。

★然し最早や、何としても打開策を講じて改革を斷行せねば立行かぬ現況に最大の悩みを包んでゐる「天界」でもある。(T. T. 生)



變光星課の偉才 故木下謙君
(第343頁参照)

告!!今夏八月一日より約10日間京都帝大夏期講演會が開かれ、上島講師は「天文概論」の講義をされます、聴講希望者は大學庶務課へ照合の事。